

Title	質疑應答
Author(s)	
Citation	地球 (1930), 13(3): 236-236
Issue Date	1930-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183725
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

近頃は日本の養鶏業が發達したゝめに、過剩卵の處分が考へられるやうになつてきたと同時に、支那卵は年々其の價が高くなつてきたから、やがては日本の生卵と其相場が接近し日本でも製卵工業が起るやうになるらしい、しかし日本の卵は支那卵よりも粒が大きくて卵白の量が比較的多すぎる、愛知縣あたりの産卵地ではそろ／＼卵の工場を計畫せねばならぬと考へる。

質疑應答

【問】 シアムの資源

大阪 T 生

【答】 シアムは東南アジアに於ける唯一の獨立國である、惠まれた堅實な進歩的の政府を有し、その資源は甚だ多い、國運の將來は有望である。

一八二六年英國と通商條約を結び、大戰後、歐洲各國、アメリカ合衆國及日本等十二ヶ國と修好、通商航海の條約を締結した、現今政府の高官たるものは多く皇族であつて、大部分は歐洲や北米で教育をうけたものであり、現ブラジャデヒボツク王は財政緊縮と同時に商業經濟方面に近代적の進展策を探り、多くの外人顧問を雇うてゐる。

シナム人の大部分は主として農業を行ふ、全人口一千萬人中八百萬人までは土着のタイ族で彼等自らヌアンタイ（自由の王國）といふ、殘りの低地にはマレー人があるが、かなり

同化してシナム語を用ひる。

支那の華僑がこゝでも小賣業を支配し、シナムの錫採取は支那人によつて始められた。

歐人では英人が古くから活動し、大商業は英人の手にあり英語が通用する、首府バンコックは人口四十萬、メナム川口より二十哩の上流にある。

米は主要農作物である、耕作の時期は毎年念入りの古式による儀式を以て始められ、滿十ヶ月は全人口の八割が米田に働く、米が常食であるが剩餘も多いから、印度及佛領印度支那について世界第三の米輸出國であり、世界全產額の約五分を産し、この國の輸出の約八割をしめる。

最近、南方に於ける護謨樹の生育が成功しかけてきた、甘蔗は見込があるが盛でない。烟草も出来るが支那やアメリカの輸入烟草に競争しなければならぬ、各種の熱帶果實も多い
低地シナムは世界での錫の豐產地である、年々約七千七百噸を産する錫鐵の税金が百五十萬弗位政府に入り輸出の第二位をしめてゐる。北方森林のチークは有名であるが、其產地帯の八割五分までは、歐人の管理に屬してしまつた。スチッククラツクも亦森林の副産物であつて、印度について第二位にある、かくてシナムの貿易は大戰以後十五ヶ年に大に進歩し一九二八年には輸出一億二千百五十七萬弗に上り輸入八千八百五十萬弗に達した。